



MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2017年6月号



発行人：濱塚有史 編集人：向平悟 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: info@moriokaymca.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

「みんなが笑顔になる場所」

船木 陽帆（上田中学校 1年）

3月に私は6年間通った小学校とYMCAを卒業した。この6年間を振り返ってみると、楽しかった出来事が次々とよみがえってくる。小学校生活で楽しかったことはもちろんたくさんある。でも、それと同じくらいYMCAで楽しかったこともたくさんあった。

私が1年生のころの本町校は、全体の約7割が男の子という状態だった。最初のころは大きな男の子達がとてもこわかった。しかし、実際に話してみると、相手のことを大切にできる優しい人ばかりで、気がつくとも毎日YMCAに行くことが楽しみになっていた。

本町の学童には5つの学校から子どもが来ている。年齢もさまざま。そのため、例えばおにごっこをする時も、学校ごとにルールが少し違っていることがある。また、1～6年生の子どもと一緒に遊ぶため、小さい子が不利になってしまう。私は、この2つの問題をどうやって解決すればいいのか、わからなかった。すると、あるリーダーが「じゃあ〇〇小学校のルールと、△△小学校のルールを合体させてみよう」と言った。どちらが正しいと決めるのではなく、それぞれのいいところを合わせる...それは、今までの私にはなかった考え方だった。それぞれのいいところを合わせると、どちらかの意見だけが否定されることはない。また、新しい遊び方ができて、その遊びがもっと好きになる。そこがYMCAのいいところだと私は思う。

ここまで書いてきたとおり、私は放課後の時間のほとんどを

「ぷらいむ・たいむ」で過ごしていた。そして、それとは別にキャンプに参加してきた。どのキャンプでも、新しい友達・リーダーとの出会いがあった。それぞれのキャンプが楽しかったのだが、「どのキャンプが1番楽しかった？」と聞かれたら、私は間違いなく「わんぱくキャンプ！」と答えるだろう。自分たちでカレーを作ったこと、ナイトプログラムで夜の森を探検したこと、リーダーに思いっきり水をかけたこと(笑)。たくさん走って、叫んで、笑ってとにかく楽しい♪きっと私たちの「楽しい」の裏側には、リーダー達の思いと工夫と苦労があるのだと思う。そこも含めて、私はYMCAのキャンプが大好きだ。

私がYMCAで過ごした6年間の中で、変わらなかったことが1つだけある。「YMCAはみんなが笑顔になる場所」ということだ。

YMCAに行った日の中で、笑わなかった日は1日もない。それは、とてもすごいことだと思う。私もリーダーのようにだれかを「笑顔」にできるようにになりたい、これが私の目標になった。

YMCAのリーダー・スタッフのみなさん、6年間とても充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました！



2017 リーダーキャンプ



みなさんこんにちは！お久しぶりの登場は、盛岡大学3年リーダーのジョアこと伊藤穂南です！私から、先月行われたリーダーキャンプの報告をさせていただきます。

昨年度に引き続き今年もリーダーキャンプを行いました！今年度は新しく『国立岩手青少年交流の家』をお借りし、新入生37人、リーダー16人、スタッフ6人の計59人という大規模キャンプになりました。予想以上に新入生が参加してくれたので、わくわくした気持ちで当日を迎えることができました。

昨年度は熊の出没と悪天候により途中で帰ってくるというなんともやるせない気持ちで終わってしまったのですが、今年度は天候にも恵まれてすごすことができ、充実した二日間になったのではないのでしょうか！

実は今年、出発直前にバスの出発時刻が大幅に遅れてしまうというハプニングが起きてしまいました…ですが、こんなときにこそ燃えるのが盛岡YMCAのリーダーなのでしょう。それぞれが新入生とたくさん話をしたりゲームをしたり、臨機応変に対応してくれて、バスは無事に出発することができました。青少年の家についてから健康診断のために遅れて合流する盛岡大学生を、先に待つ全員で拍手をして迎えるなど、とても暖かい雰囲気の中一日目は始まりました。

野外炊事では、終始笑い声が絶えず楽しんで作ることができました。おいしいご飯が炊けたグループがあれば、米がおかゆになってしまったグループ、少しにんじんが硬かったグループなどなどがありました。それすらも思い出になる楽しい時間だったようです。

夜のキャンプファイヤーでは、みんなで声をからしながら

ら夜が更けるまで歌い踊り、あっという間に時間が過ぎてしまいました。60人でひとつの火を囲み、大きな円を作りながらすごした時間は私にとっても今回のリーダーキャンプの思い出のひとつです。キャンプファイヤーの後の部屋に戻るまでの時間を、残り火のそばでキャンプソングを歌いながらしんみりとすごした時間もとても素敵な時間でした。

もちろん夜だけではなく日中は、灼熱の太陽の下汗をかきながら広い野原を走りまわったり、グループ対抗ゲームをしたり、水の掛け合いをしてびしょぬれになったり、新入生・リーダー・スタッフが一緒になってとても濃い時間を作ることができました。この、学年などを超えてみんなとひとつの楽しい時間を作り上げることができるのは「YMCAならではの！」と感じられることのひとつだと改めて感じました。盛岡に帰ってきて、新入生からはキャンプを楽しんでもらえた声を聞いたり、「サッカー行きます！」「野外活動いきます！」といった頼もしい声が聞けたりとてもうれしかったです。

既にたくさんの新入生が、YMCAの通常活動（サッカー、水泳、学童など）や、野外活動、サンデースクールに参加し子供たちと一緒に活動してくれています。今年の新入生もエネルギーが溢れていたり個性が強かったり、とても面白い人が集まりました！みなさんがまだあったことがないリーダーがたくさんいると思います、ぜひ遊びに来てみてください。これからは、多くの新入生と一緒に一つ一つの活動をよりよいものにしていくのでどうぞよろしく願います！

盛岡大学3年 伊藤 穂南（ジョアリーダー）



← 岩手山背景にピース



↑ キャンプといえば
キャンプファイヤー！！

→ リーダーたちも薪割り
火付けに挑戦☆



☆新入生大歓迎会☆

こんにちは！チーズです。4月16日に内丸教会さんにて盛岡YMCAの新入生歓迎会を行いました。当日は、70人以上の新入生が来てくれました。

今年も、盛岡の街へでるプログラムから始まりみんなでご飯を食べてお話をしたまたご飯を食べるとい、和気藹々とした時間を過ごしました。

今年の新入生歓迎会のプログラムは、ずばり、「撮って、逃げて、フォトウォークラリー！」です。今年も何かしたい！ということで、街にいろいろなキャラクターたちを配置し、写真のヒントをもらうために、バトルをしたり点数を引かれぬようキャラクターたちから逃げたりと盛岡の街を歩き回りました。キャラクターたちは、盛岡YMCAのスタッフや先輩リーダー！今年もたくさん活躍してもらいプログラムがより一層盛り上がりました。

「腹減った〜！」と新入生と話しながらプログラムから戻ってくると、目の前には美味しそうなご飯がたくさん！今年も、ワイズ

メンズクラブの方々にご飯を作ってくださいました。うす焼き、皮ピザ…どれも美味しくあっという間になくなってしまいました。来年も期待したいものです！リーダーたちが朝早く起きて作った手作りのご飯は、たくさん種類があり味もそれぞれ工夫して作ってきたもので美味しく食べました。

今回の新入生歓迎会に来てくれた1年生を含め、新入生は、通常プログラム活動にもたくさん参加してくれています。

人数も増え、リーダーたちもいつもより気合十分！盛岡YMCAをさらに盛り上げていきたいです。それぞれがどんな1年になるの楽しみな新入生歓迎会となりました。



盛岡大学児童教育学科3年 小野寺保乃香
(チーズリーダー)

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 5月報告書

5月アドベンチャー カレーNo.1決定戦

8時半に宮古駅に子供たちが元気に集合！元気よくバスに乗りました。バスの中でいろいろなゲームをして、あっという間に陸中海岸青少年の家に到着！そして、さっそく着プロ！カレーの具材である肉、たまねぎ、にんじん、じゃがいもを集めるために、様々なミッションをこなしました！そのあと、かぼちゃやトマト缶などなど…グループごとのスペシャル具材を獲得し、いよいよカレー作り！まきを割って火をおこしたり、具材を切ったり…。いつもは簡単に作れるカレーも、難しい！それでも、出来上がったカレーをみんな食べて、一生懸命苦労して作ったカレーは家で食べるカレーとはちょっと違ったおいしさがありました！雨が降ってしまいましたが、そんなの関係なし！！一緒にいたほかの

団体さんと一緒に歌いながら、とても楽しい時間を過ごすことができました♪

岩手県立大学2年 岡田稜平（みんみん）



←美味しいカレー
ができた～☆

→カレーNo.1決定戦
の集合写真



4月アドベンチャー 「電車で行こう！花巻空港探検！」

こんにちは！マックです！5月7日に行われたアドベンチャークラブでは、「電車で行く！いわて花巻空港探検☆」ということで、花巻空港に行ってきました！

いつものアドベンチャークラブではバスに乗って目的地へ向かいますが、盛岡駅から自分たちで切符を買い、みんなで電車に乗って花巻空港駅まで向かいました。また、今回は出発式が終わってすぐにプログラムがスタートしました。電車に乗るのが初めてという子も、切符を買うのが初めてという子も、「3つ目の駅の名前はなんだ？」「動物が隠れている駅の名前は？」などなどグループごとに、耳を澄ましてアナウンスを聞いたり、目を凝らして車窓から少しの時間だけ見られる駅名を確認したり、クイズに挑戦しました。楽しみながらも子どもたちは、他のお客さんも気持ちよく過ごせるよう、ルールを守って過ごすことが出来ました。花巻空港駅についてからお昼ご飯を食べる公園までも、不気味な地下道を通ったり、宮沢賢治のポーズを真似たり（笑）、鴨の目撃情報を田んぼでお仕事をしていたおじいさんに教えてい

ただいたり、グループごとにわいわいと向かい、みんなでお昼ご飯を食べました。そして花巻空港では、係の方にたくさん質問する子、飛行機の着陸に興味深々な子、着陸した飛行機を誘導する手信号の真似をする子など、子どもたちはたくさんの発見を得られたようでした。

今回の活動では公共の場で過ごすことも多かったのですが、ルールを守りながらも、楽しく、そして遊ぶところは思いっきり遊ぶことが出来ました♪

岩手看護短期大学3年 鬼柳 琴（マックリーダー）



←空港で飛行機も
こんなに近くで見
れたよ！！



☆4月サンデースクール オリジナル焼印入りどら焼き

4月サンデースクールは、子ども17人、リーダー13人での活動となりました。今回はどら焼きを作り、生地に焼印をつけるという盛り沢山の内容でしたが、それでもグループで協力してオリジナルのどら焼きを作っていました。

生地作りでは各グループで時間や回数を数えて交換しながら楽しく混ぜていました。皆、気持ちを込めて強く混ぜたり、さっくり混ぜたりしていました。皆で作った生地はフライパンに丸く広げて焼きました。小さい子もリーダーに手伝ってもらって上手にできました。そしてフライ返しで上手に焼けた生地をひっくり返していました。

生地がふわふわになるようにラップで包んで寝かせている間に焼印を作りました。針金を自分の好きな形に折り曲げます。小さい子は自分の好きな形をリーダーに作ってもらっていました。自分でチャレンジする子たちは、丸、ハート、星、顔、その他面白い形を一生懸命作っていました。

頑張った焼印を10数えて火で炙り、3数えて生地に焼印を押し付けました。焼印がつくと子どもたちは大喜びでした。うまくいかなかった子は何度も挑戦し、オリジナルの焼印をつけていました。

そして、焼印がついた生地自分たちで栗を切って入れたあんこを挟みます。これで焼印入りオリジナルどら焼きの完成です。出来上がったどら焼きは全員でいただきますをして食べました。皆で協力して作った生地に、自分で焼印を付けた愛着の湧くどら

焼きはとても美味しかったです。子どもたちも美味しそうに楽しく食べていました。

食が終わると全員で記念写真を撮り、家庭でも作れるようにレシピを書いたラミネートを渡しました。今年度からラミネートを保存するファイルも作成し、渡しました。早速1枚目をファイリングしている人もいて皆喜んでくれました。

今回のサンデースクールは料理と工作が混ざったプログラムでしたが新年度最初のサンデースクールにふさわしく、子どもたちの笑顔溢れる活動となりました。どのグループも皆で声を掛けながら楽しく協力して活動していました。これからのサンデースクールも充実した活動にしていきたいです。

岩手大学教育学部2年 東 彩由海（マックスリーダー）



←オリジナル焼印入
り
どら焼き完成☆



6月の予定

- ★6月10日(土)
特別プログラム
森のようちえん
子どもの森へ出かけよう
場所：いわて子どもの森
- ★6月18日(日)
サンデースクール
転んでも転んでも
起き上がる！
おきあがりこぼしを
作ろう
場所：向中野センター
- ★6月20日(火)
火曜水泳教室 休講
- ★6月24日～25日(土・日)
アドベンチャークラブ
バンガローに泊まる場
場所：田沢湖キャンプ場
- ★6月29日(木)
高松サッカースクール
向中野サッカースクール
補講
- ★6月30日(金)
篠木サッカースクール
盛北サッカースクール
補講

金曜水泳教室
補講

表紙の写真から



4月29日(土)～4月30日(日)の2日間、国立岩手山青少年交流の家で行われた「リーダーキャンプ」での集合写真。
今年度もたくさんの元気溢れるリーダー・スタッフで楽しく活動していきます！
明るく、楽しいYMCAを今年もよろしくお願いいたします。

- 維持会費
(2017年度5月24日現在) 敬称略
- 木田泰之、光永尚生、花田暉、小笠原真紀子、東森
 - 聡、伊藤真太郎、伊藤愛美、尾形裕一郎、家村知
 - 佳、小川嘉文、小川明佑、魚住恵、長岡正彦、斉藤
 - 恒夫、濱塚有史、濱塚真美、濱塚恵太、濱塚直樹、
 - 寄附金
光永尚生、花田暉

感謝

このピースフォーラムを通じて、日本とフィリピンとのこれまでの歴史について学ぶことができました。実際に体験したお話を聞くことで、当時の状況の理解がしやすくなり、改めて戦争は決してしてはいけないものだと感じた。戦後、日本はフィリピンに対して戦後補償を行い、フィリピンの発展の手助けとなった。しっかりと戦後補償を行なったことで、フィリピンの人々から感謝されるまでになり今の良い関係性ができているのではないかと感じた。私は今回のワークキャンプで初めて、日本がフィリピンを占領し、また戦後には戦後補償を行い、感謝されるようになったことを知った。しかし、この



君でいいんだよ ～JUST THE WAY “YOU” ARE③～

つながる？



盛岡YMCAは学生ボランティアリーダーのパワーで成り立っていると、言っても過言ではない。それだけ、学生リーダーは、多くの時間とエネルギーをYMCAの活動に費やしてくれる。感謝しても、感謝しきれものではない。…と心では、そう思いつつ、「YMCAのリーダーって、結局『どこか寂しい奴』なんだよね。」などと、思知らずなことを口走ったりするのが僕のとていけな所だ。

新入生からは「えっ？私はそんな寂しい人間ではありません。ショックです。」なんて怒られたりもするが、3、4年生や、OB、OGともなると、「今年は寂しい奴が何人残るでしょうね」等とどこか達観した境地に至っているようだ。

今の時代、「つながる」ということは、重要なキーワードの一つだ。フェイスブックやラインなど、SNSを駆使することは誰もがっており、こうして繋がりを広げていくことは、個人の生活はもとより、ビジネスの面でも、大きな効果が期待できる。しかし、いつしか人は、本来の目的を忘れ単に繋がることだけを目的にしてしまいがちである。僕なんかは盛岡YMCAのフェイスブックの「いいね」の数ばかりが気になって日に何度もチェックしたりしてしまう。

学生リーダーの活動を見ていると、楽しいことばかりではない。むしろしんどいことの方が多いようだ。何度も重ねるミーティングの中で、他者との一

致点を見いだせず、憤慨したり、実際の活動の場面では子どもたちに十分に向き合えていない自分や、他のリーダーとの様ざまな意味での格差に気づきひどく落ち込んだりもする。笑顔の裏に満身創痕の心を隠してYMCAに来ることも多々あるように思う。だから、春は大勢いたリーダーも1年も経つその多くが去っていく。YMCA以外にも楽しいことがたくさんあるし、アルバイトも大切だ。何も好き好んで辛いことをする必要もない。だから、そんな中で残ったリーダーたちはやっぱりどこか「寂しい奴」なのである。

でも、この「寂しい奴」たちは、群れなければ生きていけないから、YMCAに集うのではない。最近、僕は以下の2つの言葉に出会った。

「我々は集うために『個』でなければならぬ。本当の意味で集うためには人は『個』でなければならぬのだ」(若松英輔)

「自分の心の奥の奥の奥を掘った方が「みんな」に出会える」(山下聖美)

寂しいとは、実は一人になれるということだ。自分と向き合う勇気を持った人だということだ。そうしたリーダーたちだからこそ、本当の意味でつながっていきけるのだと思う。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは、何もできないからである。」

(新共同訳聖書 ヨハネによる福音書15章：5節)
盛岡YMCA総主事 濱塚有史

ショッカーもフィリピンで考えた。③

ワークキャンプ3日目、この日はワークを行う前にピースフォーラムというものを行なった。このピースフォーラムは、今回訪れたディンクル地区在住のアンヘリーナさんの戦争体験を聞き、日本とフィリピン両国の歴史についての理解を深めるためのフォーラムである。フィリピンは現在に至るまでに、三つの国に占領されてきた。最初はスペイン、次にアメリカに占領され、そして最後に日本に占領されていた。日本はかつて、領土を拡大するために侵略してきたが、フィリピンも占領していたとは知らなかった。今回フィリピンに来て温かく受け入れていただいていたが、まさかそのような歴史があるとは思っていなかった。アンヘリーナさんから聞いたお話は、とても残酷で胸が痛くなるものばかりだった。

このピースフォーラムを通じて、日本とフィリピンとのこれまでの歴史について学ぶことができました。実際に体験したお話を聞くことで、当時の状況の理解がしやすくなり、改めて戦争は決してしてはいけないものだと感じた。戦後、日本はフィリピンに対して戦後補償を行い、フィリピンの発展の手助けとなった。しっかりと戦後補償を行なったことで、フィリピンの人々から感謝されるまでになり今の良い関係性ができているのではないかと感じた。

私は今回のワークキャンプで初めて、日本がフィリピンを占領し、また戦後には戦後補償を行い、感謝されるようになったことを知った。しかし、この

ことはピースフォーラムを行う前に知っておくべきことだったのではないかと強く感じた。これまで日本がフィリピンに何をして来たか、それにより現在は何のような関係になったのかを知っておく必要があると痛感した。ワークキャンプを行う上で、知っておくべきことは被災状況など様々なことがある。私はその知っておくべきことの中に、両国間のこれまでの歴史も必要であると感じた。それにより関わり方も変わり、関係性も変わるのではないかと考えるからだ。お互いの理解が深まることでより関係性も密接になると思う。それは、「国と国」の関係性だけでなく、「個人と個人」にも同じことが言えるのではないかと。また、日本人同士でも同様に言えると思う。活動などで人と向き合う時、相手を理解し、自分を理解してもらうことで、より良い関係性を作るきっかけとなるのではないだろうか。歴史認識、相互理解の重要性に気付かされたピースフォーラムであった。

